

松河戸町の沿革

2 美しい田園地帯

(1) 古くからの稲作地帯

この地域は、昔から稲作の盛んな所でした。

1992 年から始められた松河戸土地区画整理事業の際、1996 年 1 月から 1998 年 11 月にかけて遺跡発掘調査(安賀公園の北側)が行われました。

この松河戸遺跡や近くの町田遺跡から、縄文時代の終わりから弥生時代前期と鎌倉、室町時代の集落跡が発見されました。

松河戸遺跡からは稲作農耕が日本に伝わってきた段階での「環濠集落」が確認されており、弥生時代前期(紀元前 2 世紀ごろ)稲作が盛んに行われていた様子が見られ、日本の中でも早い時期から稲作耕作が発祥した地域と思われます。(図 1)

松河戸は庄内川と支流の中川の氾濫原の沖積平野です。集落は庄内川堤防下の周りより一段高い所にあるかたまり単位を島と呼んで村の中の最小自治組織として長い

間日常生活の中に定着して今日に及んできました。

昔から川は文化を運ぶ道として、人々の結びつきを強固なものとしてきました。

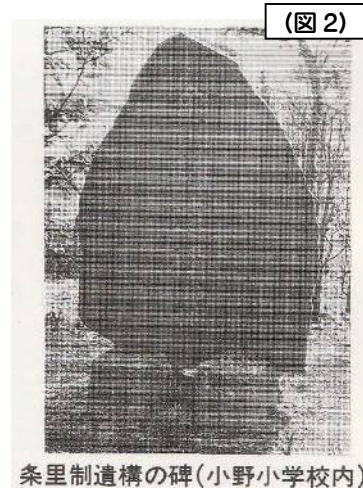
春日井市内の弥生時代の遺跡は庄内川流域を中心に展開しています。松河戸の上流には高座町から堀ノ内町にかけてたくさんの古墳が残っており、その対岸には大規模な上志段味古墳群が位置しています。出土品などから、庄内川流域のこれらの地域の交流があったことがわかります。

松河戸町一帯は、古代・中世に「安食荘」と呼ばれる天皇家に納めるコメを作っていたことが『醍醐寺文書』に記されています。(図 3)

(「安食荘」は春日井西南部から名古屋市北区北部にあったとされる荘園ですが、その東限については定かでないが松河戸もその一部といわれている)。



(図 1) 松河戸土地区画整理事業の歩み 春日井市都市整備課

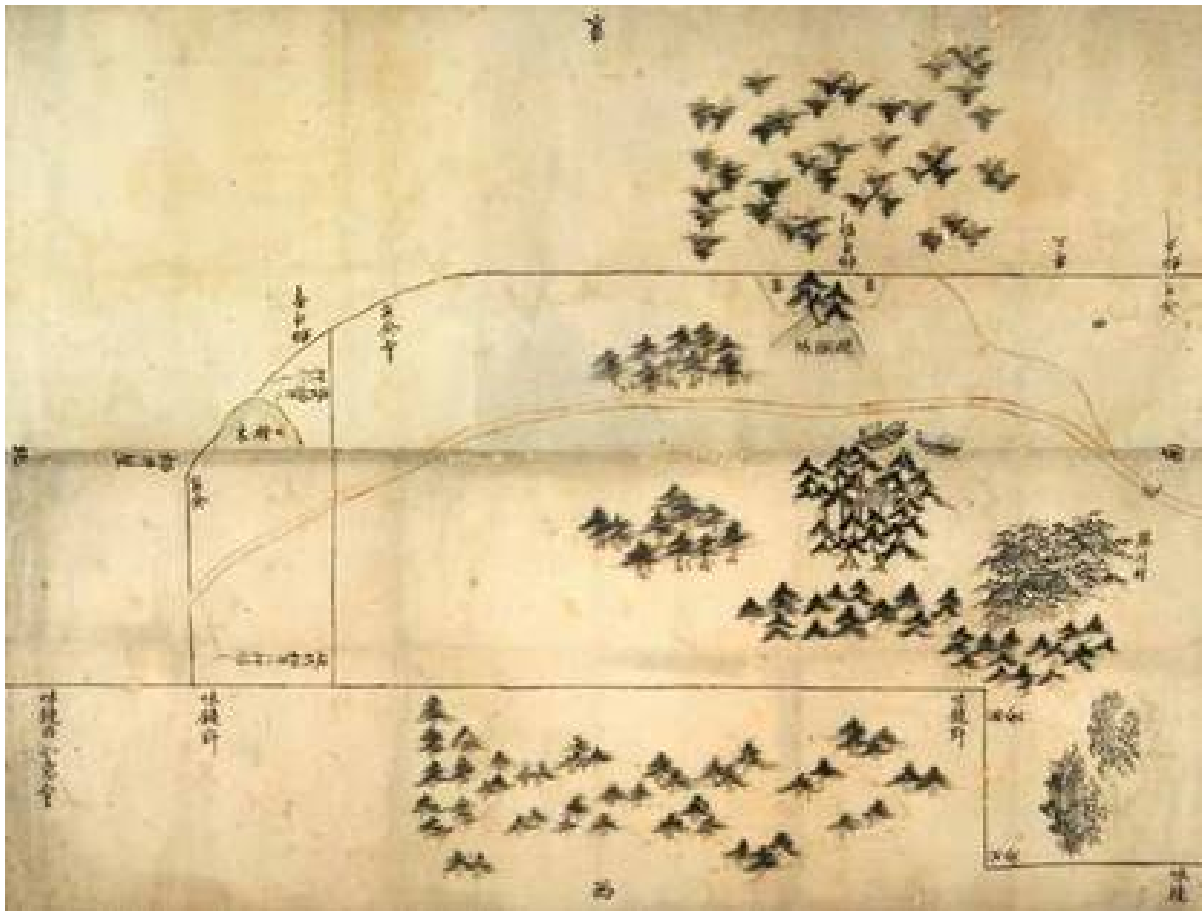


区画整理が行われる前まで松河戸北部一帯は整然と広がる水田でした。「条里制」と呼ばれる計画的な水田開発に基づいた畦・水路を利用してきたことが考えられます。(図2)

室町時代になると大きな荘園がくずれて、現在の村が起こり始めます。集落の中に寺や神社が作られるようになり(明応3年1494年白山神社再建、15の森悲話)、村を中心とした農業の生活、制度がこの頃から起こり、安土桃山、江戸、大正、昭和のはじめまで少しずつ変化しながら続くことになります。

この一帯は古代から人間活動が安定して展開された場所であったと考えられ、陸水路としての庄内川も重要な役割を果たしてきたと思われます。

(図3) 醍醐寺領尾張国安食荘絵図 醍醐寺蔵



この絵図は、1978年に醍醐寺文書(2013年、国宝に指定)から発見されたものである。尾張の数少ない貴重な荘園絵図として、新修名古屋市史や愛知県史では、カラー版が付図や口絵で紹介されており、名古屋市博物館でも原寸大の複製が常設展示されている。本市域に関わる唯一の荘園絵図である。

安食荘は、現在の名古屋市北区を中心に本市の勝川・味美にまで広がっていたとされる荘園である。9世紀末に成立、10世紀初め醍醐寺領になり、一時公領になったが、12世紀中頃に再び同寺領となった。

絵図は、東西南北の直線が基調で、条里が基盤にあったと考えられている。作成時期は、安食北部の区画に「近代柏井へ押領之」とあることなどから、領地の係争があった15世紀前半と推測されている。

「安食」には「勝川村」があり、東西に「柏井野」「味鏡(鏡)野」があることから、勝川地区を主体とした絵図とされる。

(春日井郷土史研究会) 郷土史かすがい ホームページから

(2) 現代まで続いた美しい田園地帯

区画整理が行われる前まで、松河戸北部一帯は整然と広がる水田が残っていました。

「条里制」と呼ばれる計画的な水田開発に基づいた畦・水路^{あぜ}を利用してきたことが考えられます。

安賀^{やすが}の辺りは、条里制地割の遺構が広く残っており、松河戸の中でも米作の一等地でした。

町田の辺りでは、一町歩区画の田が連なっているのが見られ、細木の辺りでは、条里地割の長地型(100メートル×10メートル)が顕著に見られました。(図6)

自然堤防の時代は水禍の絶えない村でしたが、庄内川の堤下に立ち並んだ民家はヨゲ堤で守られ、堤防に水害を防ぐ松を植えるなど先人の努力がうかがわれます。

昭和28年に王子製紙の操業が始まると、地藏川一帯は工業系地区に指定され、その結果、松河戸の西部にあたる細木、一ツ橋、段ノ下などは、愛知電機工作所をはじめ、中小の工場群の進出がみられ、この地区は松河戸から分離し集落の景観も大きく変わりました。

松河戸の周辺が市街化区域、工業系地域に指定される中、松河戸の中心部だけは田園地帯を守ってきました。しかし、環状2号線や南部処理場など大規模な公共施設整備が計画され、松河戸も市街地の整備が必要となりました。

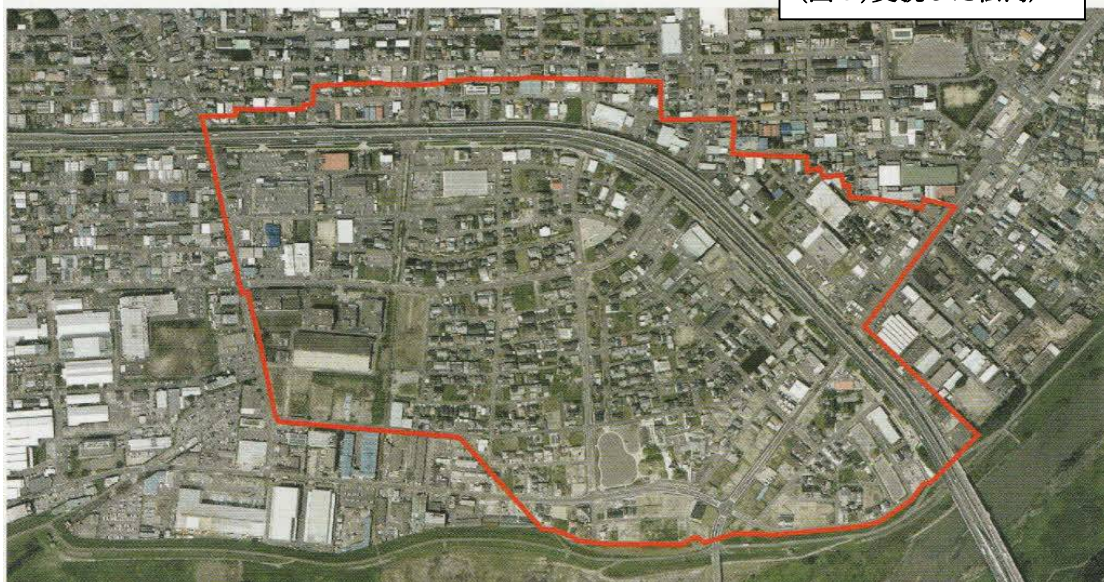
平成4年から始まった区画整理事業により、最後まで残っていた松河戸の中心地域もかつての面影はなくなってしまいました。

しかし、美しい田園は失われましたが、道路が整備され、住みやすく美しい町に変貌しました。(図5)



(図4) 昭和36年11月 美しい田園の中にある小野小学校

2014年(平成26年)撮影



(図5) 変貌した松河戸



(図 6) 昭和56年 区画整理前の松河戸

区画整理が行われる前まで、松河戸北部一帯は整然と広がる水田が残っていました。
「条里制」と呼ばれる計画的な水田開発に基づいた畦・水路を利用してきたことがわかります。

春日井市史 地区誌編 松河戸



(注意)

「松河戸町の沿革」は、《参考資料の記事》を転記又は抜粋してまとめたものです。
間違いや追加など補筆訂正がありましたらご連絡ください。

《参考資料》

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会編集

郷土誌かすがい

松河戸土地区画整理事業の歩み 春日井市都市整備課

春日井市史 地区誌編 松河戸 昭和 60 年 3 月発行